

と隆昌とを免れかりし、本會の志向とするところは常に公平不偏の境地に立ち社會政策的原理の探究と階級闘争的破局の緩衝とを念願するに在りて終始最善を盡し來りたることは今日に於て識者の是認せらるるるところと存候

然るに終戦となりに及び民主的産業平和の實現を期し本會の機構及び運営を改革するに専念致しつゝありしかる後に於ける國內諸般の情勢殊に本會がさきに産業報國運動の生誕に關與し其の結果勞働組合抹消の源流を為せりとする世論の歸趨に鑑みるにむしろこの際本會を解体して過去の緣因を絶ち時代に即して新に發祥する團體に一切を期待することか最善にして且

必至の方途なりことを信ずるに立至り候

仍て去六月二十六日理事會を翌二十七日評議員會を開き本會を解散して資産一切を新設立團體に寄附することとを議決致し尚ほ有能なる職員はこれを新團體に於て通所に配置することの諒解の下に本日政府の認可を受け候而して民間十五名の發起により吉阪俊藏、鮎澤巖及び桂奉三氏が設立者となりて政府の設立許可を受けたる新財團法人中央勞働學園は新構想の下に勞働問題の調査研究及び教育に當り平和日本建立の大業に向つて進發すること、相成候

大体以上の経過により協調會は茲に二十有七年の波瀾多き歴史を閉了すること、相成候次第に有芝候而してこ